



目次	
巻頭言	1
全連退第2回理事会報告	1
東陸地区退職校長協議会報告	1
県退職校長会「研修会」報告	1
地区退職校長会だより	2
生き生きライフ	2・3・4
作品等募集のお知らせ	4

題字 19年度入会
杉浦光子 (元 安城・桜町小)
22年度入会
絵 中川克夫 (元 新城・東郷中)

健康長寿

副会長

夏目忠士



副会長に就任して、間もなく一年になるうとしている。その間に全連退総会にも出席させていただき、八十歳を過ぎた役員さん方のお元氣な姿に深い感銘を受けた。

日本の平均寿命は、およそ男性80歳、女性86歳で大変な長命である。ただ、健康寿命（健康で自立した生活を送ることが出来る期間）と平均寿命では、10年前後の開きがあると言われている。その期間をいかに短くするか。それは、20年以上もある第二の人生を豊かで充実したものにするために極めて重要である。

私の愛読書の一つに、『余生堂々』（松木康夫著）という本がある。この本の中で、著者は、心身ともに健康な第二の人生を送るための「五つのリッチ」を提唱している。

① マネーリッチ（第二の人生を全うできる程度の備えや蓄えを持つ）

② タイムリッチ（豊富にある自分の時間を大切に使う）

③ フレンドリッチ（交際範囲を広げ、心の友を持つ）

④ ホビーリッチ（本物の趣味を見つけて極めよう）

⑤ ヘルスリッチ（健康な心と体づくりを心がけよう）

この中で、ヘルスリッチは、すべてのリッチを実現するための基本的、かつ必須な条件である。

私も、バランスのとれた食事（これは家内のおかげ）、禁煙と節酒、ウォーキング、野菜作り、読書、ゴルフ等を続けるとともに、地域活動に積極的にいかかわることで、健康長寿を目指し、第二の人生が豊かで充実したものになるよう心がけている。

それと同時に、長年青少年の健全育成、学校教育に携わってきた者として、退職後もそうした面に関心をもち、側面から協力・支援をしたいものだと考えている。それも、健康であればこそできることであろう。

会員の皆様方の健康長寿と一層のご活躍を心からお祈り申し上げます。

全国連合退職校長会

第二回理事会報告

平成二十五年十月三日、江戸東京博物館において全連退「第二回理事会」が開催され、本県からは中川正明・加賀昭二両副会長が参加した。

全連退戸張敦雄会長の挨拶に続き、三省（文科省・厚労省・総務省）への要望書提出を中心に報告があった。

午後には、課題「全連退の使命を果たすために本部と各団体の役割をどう考えるか」について分科会ごとに意見交換し、その結果を全体会で報告しあった。

東海北陸地区退職校長会

協議会報告

十一月七・八日、福井市で東海北陸地区協議会が開催された。本県からは、安藤公明会長、中川正明・名倉治男副会長の三名が参加した。

上坂福井県会長の歓迎の言葉の後、戸張全連退会長は、挨拶の中で「道徳の教科化、教育委員会制度の見直し、教員免許のあり方」等教育改革の流れについて述べられた。

協議会は、①効果的な教育支援のあり方について②組織の活性化と他団体との連携について③全連退への要望についてのテーマで、各県の取り組みや課題が話し合われた。

県退職校長会

「研修会」報告

八月六日、稲垣寿義務教育課長を講師にお招きし、県退職校長会役員を対象に「義務教育における今日の課題」についてご講演をいただいた。

大量退職、大量採用による急激な世代交代が進む中での若手教員の育成、「自分らしい生き方の実現・夢の実現」をめざすキャリア教育、「いじめ防止対策推進法」の制定と生徒指導について、豊富な資料を基にわかりやすく説明していただいた。また、教科書採択の問題、新たな派遣指導主事制度や「道徳」・小学校「外国語活動」の教科化など教育改革の動きについての情報も提供していただいた。



最後に、安藤公明会長がお礼とともに、「現職の校長会と意思疎通をはかり、その意向を大切にして退職校長会の活動を進めていきたい」と語られ、研修会は終了した。

地区退職校長会だより

県内の各地区退職校長会からたよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介していきます。

高浜市退職校長会

高浜市小中学校長OB会は高浜の浜と市の花の菊をとって『浜菊会』と称しています。高浜市は小学校5校、中学校2校の県内で一番小さな市です。現在の会員数は24名で、親睦・懇親を主に、毎年5月下旬に会を開催しています。事務局は退職後二・三年目の者が順次担当しています。会は和気あいあいの中、先輩後輩の区別なく、近況報告や現職時代の思い出話に花が咲きます。

高浜市は三州瓦の産地として有名です。三州瓦のシェアは国内の71%（平成23年度）で全国1位です。市内には大正時代に築かれた日本最古のダルマ窯があり、市の文化財となっています。現在も年間数回火入れをし、窯を良い状態で保存する努力がなされています。主に粘土で築かれたダルマ窯は、常に焼成をくり返し、補修を細目に行ってみえます。

トピックスとしては、B1グランプリ出場の『トリメシ』があります。市内吉浜地区の伝統料理で、鶏肉を入れた炊き込みご飯です。ニンジンなどの野菜を入れたり、油気たっぷりに仕上げたりと種々の作り方があります。いずれも飽きがこないおいしさです。

一昨年は北九州市大会で入賞を逃しましたが、昨年は豊川大会で8位でした。

（22年度入会 神谷純二）

小牧市退職校長会

昭和五十四年に設立された小牧市校長OB会は、小牧市小中学校長退職会及び小牧市在住の小中高等学校校長退職者で組織され、現在、会員数は、百三十三名となっています。

主な事業としては、年一回の総会及び懇親会、五年毎の追弔法要、弔事に際しての弔問等を行っています。

平成二十五年度は、ちょうど追弔法要の年に当たっており、市内の西林寺で遺族を始め、会員の出席のもと、厳か

に法要を執り行いました。

その後、場所を変えて総会及び懇親会を行いました。

総会には、市長・教育長・現職小牧市校長会役員を来賓にお招きし、それぞれの立場から教育に関するお話を伺い、教育現場の現状を知ることができました。



平成25年度 小牧市校長OB会総会 於 小牧コミュニティホール 2013年5月26日

懇親会では、先輩後輩の縦のつながり、同期の横のつながりを生かして、和気藹々の雰囲気の中で、心ゆくまで教育談義に花を咲かせることができました。

会員の中には、市民講座の講師や市民クラブの指導者として、元気に活躍されている先輩の方々がおられ、若手も負けてはおれないなど、気持ちを新たにしたい懇親会でした。

（21年度入会 安東 要）

愛知郡日進市長久手市退職校長会

本地区の退職校長会は、愛

知郡と日進市、長久手市の学校で校長として退職した方と今年度退職者、各郡市の校長会長で組織し、現在の会員数は八十四名となっています。

今年度は、十一月二十三日の土曜日に新会員四名を迎えて三十二名の参加で定例の総会・懇親会を開きました。会に先立って、故人に黙祷を捧げた後に、総会で新役員選出や地区の現状報告並びに教育課題とされる内容の報告会、記念撮影等がされました。

総会後の懇親会では、懐かしい先輩からの話も多くなされる中、今日的教育課題に対しても適切にご示唆いただき、終始和やかな雰囲気での会となりました。現役当時の苦労話ばかりでなく、健康面を気遣う会話も多くあり、本地区

での会員相互のまじりや仲間意識の強さが伺えた良い会となりました。



平成25年11月23日総会時の記念写真

（東郷小学校長 石川光秋）

地域に広がる

合唱の輪

19年度入会 服部 初音
（元 名古屋・八社小）

退職の年、地域で喫茶店を経営している同級生から声がかかりました。「おじさん、おばさんコーラスをしたい人を集めたので、私の店でコーヒー付きコーラスを指導してほしい」と。50代から70代までの10人程が始まりました。

学生時代合唱部だった人、肺ガンの手術後で腹式呼吸を覚えたい人、リタイア後の趣味にしたい人などでした。皆さん歌う時は姿勢も良く大きな口を開けてにこやかに歌われます。

生き生きライフ

ひばり会コーラスグループです。会員がだんだん増え、最初の二倍・三倍となりました。喫茶店では手狭になり、老人介護施設の地域交流スペースなどを借りて練習をするようになりました。

行事は、老人ホーム訪問、敬老会での演奏、トワイライストスクールとの合同クリスマスコンサート、二年に一回の

区文化小劇場での演奏会（写真）などです。

退職後に小学校のトワイライトスクー



トワイライトS.の子どもと合同演奏会

ルの専門員をしています。その子どもたちにもコーラスの講座で歌の指導をしています。クリスマスや演奏会には合同で歌っています。また、ドラム演奏が堪能な先生がその小学校にみえて、今回の演奏会では合唱をドラムセットの演奏で盛り上げてもらいました。また、区退職公務員連盟も演奏会の後援をしてくださいました。合唱の輪が少しずつ広がっています。

周平ワールドを愉しむ

20年度入会 安藤 秀夫
(元 清須・古城小)

早いもので、退職して六年が経とうとしている。

その後暫くは、それまで家内に頼りきりであった両親の介護の世話やら、他の仕事等も抱えていたことから、人生のリセットを忘れていたが、父に続く母の他界を機に、家内共々、漸く、ゆつたりとした時の流れの中に身を置くこ

とができるようになった。

これといった趣味を持たなかった私だが、近頃、妙に嵌まって愉しんでいることがある。現職の頃、何気なく買求めた文庫本の再読がそれである。永く本棚に眠っていたせいか、赤茶けてしまっているものさえあるが、それがまた、懐かしく愛しく思えてならない。齢を重ねたからであろうか、時代小説ものを手に取ることが多くなり、短編などは三読・四読と何度読んでも飽くことがない。



N先生に感謝!

とりわけ、暗さの中に仄かな明かりが灯り、明るさの中に一抹の暗さが忍び込む独特の情感をたたえた藤沢周平の「武家もの」作品に魅せられ、完全に嵌まっている。

今や、周平ワールドの虜、某文化センターの『周平傑作短編文庫を愉しむ』講座の常連、講師である文芸評論家の講釈を拝聴しつつ、周平オタクと思しき同年輩の仲間ともあれこれ語らう至福のひとつときを味わっている。

『残日録』の主人公、三屋清左衛門曰く「日残りテ昏ル

ルニ未ダ遠シ」と、人生まだまだこれからなのだ。

面に惹かれて

21年度入会 鈴木 久夫
(元 豊田・稲武中)

師匠の「大癡見」を見たのが、平成八年の九月だった。

以来、能面に惹かれていた。なんだ、当型があるならできると思ったのだが、違った。平面図に寸法も入っているが、測りようで寸法が変わる。

面打ちは小面に始まって小面に終わるといわれている。平成八年度には闇雲に「小面」を七、八つくらい彫った。彫りが済むと塗り（彩色）。胡粉を膠で溶かし、下地を塗る。その上に薄く肌色胡粉を重ね、刷毛目を出し、毛描きをする。

そして、いよいよ古び出し。面打ちは「写し」であり、いかに「本面」に近づけるかである。面打ちに創作はない。彫りがよくても古色で失敗することもある。横刷毛目の肌に海綿のタンポで、ススやヤシヤブシの煮汁を少しずつ、少しずつ古びをつけていく。面を打つまでは知らなかったが、「小面」の目穴は四角い。そして、面を付けると目の位置がずれ、顔の上部は蔓帯で

隠れるが、顎は出てしまう。凹凸の少ない小面から、角と牙の般若。切り顎で、神格化された翁面。そして男面、女面と、年賀状に載せてきた。

退職の年には師匠の個展の端に重ねてもらい、暇になったらと思ったが、結構忙しい。地域の役員をやらされ、米作修行にも両足を突っ込んで、三〇代からの尺八も時に敬老会や月見の宴、ふるさと祭り等出番もあって、今はこの

「若女」で足踏み状態である。



若女

立冬にアサガオ

21年度入会 一宮 登
(元 名古屋・名城小)

東北復興支援の一つとして福島県の生産者が育てたイポメア（宿根アサガオ）を購入しました。小さな植木鉢からプランターに植え替え、説明書のとおり粒状緩効性肥料を一ヶ月に一回与え、さらに二週間に一回液体肥料も与えま

した。一時期につるばかり伸びて花の咲かない「つるばけ」状態になりましたが、十一月七日の立冬にも花を咲かせてくれました。

咲き始めが青紫色で、時間が経つにつれ、ピンク・桃紫色系に花色

が変化していきます。夏からとても短い今の秋を通過して冬まで、季節の移り変わりとともに元氣一杯の色鮮やかなアサガオを楽しんでいます。

イポメアは、種子から育てる一年草のアサガオの仲間ですが、我家で育てているイポメアは宿根し、来年も花を咲かせるとのことです。楽しみにしています。一年草のアサガオは朝咲いて午後にはしぼんでしまいますが、イポメアは夕方まで咲き続けます。十一月では、翌日まで咲き続けています。いったいいつまで花を咲かせてくれるのか、毎朝の楽しみの一つです。

イポメアは、寒さには弱く株が凍ってしまうと枯れてしまうので、防寒対策をしています。株元に土を被せてワラや腐葉土で覆い、さらにその上から土を被せています。霜が降りる前には、地際から20cm位に切り詰めます。来年も東北復興支援の花をたくさん咲かせたいと願っています。



蝶のたより

22年度入会 古田 健治
(元 一宮・起小)

退職をしてから、春の我が家の夕食の献立に、つくしの卵とじが一品ふえた。

今までは想像すらできなかった朝のゆつたりとした散歩、小さな春を見つける楽しみ。

モンシロチョウやキチョウが飛び交う散歩道、学生時代チョウに魅せられ野山を駆け巡ったときに使った捕虫網と三角管が、今ではどこに行くにも大切なアイテムになった。

「チョウや虫を採ることに否定的な論もあるが、それは反対に知的好奇心を虫かごの中に閉じ込めてしまうようなもの」と、採集旅行でちょっとした名和秀雄先生の言葉が思い出されてならない。

日本には、現在二五種類のチョウが生息している。そのほとんどが、日本の気温分布に正確に裏付けられた生育分布を示している。

近畿以南に生育するナガサキアゲハが、今年は庭に四度飛来した。数十年前にはこの地方では見ることのなかったツマグロヒョウモンが毎日の

ようにスマイレの葉に産卵のために飛来してくる。明らかに目に見えない温暖化が進行していることを、チョウたちが私たちに警鐘を鳴らしている。

同期退職の仲間との楽しいハイキング、奈良の室生寺でアサギマダラの渡りに遭遇した。

汝はまだ、ここから沖繩までの千キロ余を旅するの



アサギマダラ(♂) 25.9.29 室生寺
ツマグロヒョウモン(♀) 25.10.5 一宮市

小さなチョウから大きなウから大きな勇気をもらった。まだまだチョウから学ぶに余りある。

楽しい
フアションショー23年度入会 岡田 滋代
(元 豊橋・福岡小)

退職したら、やりたかったことのひとつが洋裁であった。それを始めたのは退職一年後。先生のご自宅の二階の洋裁教室はいつもエネルギーッシュで話題豊富な先生のもと笑い声が絶えない。先生は自分の作りたいものを通して技量向上を図ろうというお考えでまさに私にぴったり。三十代から七十代までの方々と話もはず

みすぐ時間がたってしまう。

一年の成果を発表するフアションショー。豊橋駅のホテルアソシアの五階。両側に百人程の観客の真ん中のランウェイを自分が作った服を着てモデルのように背すじを伸ばして歩く。途中で立ち止まり左右を向いて披露し、向こうまで行ったら、Uターンして戻ってくる。その間、先生がそのドレスの特徴や作成上の工夫や苦心などをアナウンスしてくれる。

ピアノとバイオリンの生演奏の中、笑顔を引きつけて「私の作った服を見て！」と歩いた。おいの結婚式の用紙の紺のシルクフォー



私の作った服を見て！

マルドレスを着て。どのぐらい見てくれる人の目を惹きつけられたかな。

さて、肝心の腕前とは言われるとまだまだ。だが今は作るのが楽しくて楽しくて。フアションショーのラストはウェディングドレス。私も娘のウェディングドレスを作るのを楽しみに腕を磨いている。

「会員交流広場」を
新開設意見・作品等を
募 集

会報をより充実したものにするため、会員交流の場を設け、会員相互の絆を強化する会報にしていきたいと思っています。

そこで、会員の皆様から会報を読まれての感想や意見をいただいたり、会員の皆様が創られた作品を募集したりして、会報に掲載することになりました。次の募集要項をお読みいただき、たくさんの方々にご応募いただきたいと思っています。

募集要項

○募集する内容

・会報を読んだ感想・意見
・作品【絵画・書・写真・短歌・俳句・川柳等】と短いコメント(大きな作品は、写真やデータでお送りください。)

○募集期間 二月～四月末日

○送付先 下記事務局宛

○その他

会報に掲載させていただくことになった場合は、事前に連絡させていただきます。

訃報 (内は逝去された日)

村松 時夫先生(二五・一〇・四元 名古屋市立小幡北小学校

ご逝去されました先生のご冥福をお祈りいたします。なお、本会より弔電にて弔意を表させていただきます。

※県退職校長会事務局に連絡いただいた中で、平成二十五年六月十五日から十二月二十日までにご逝去された方を掲載

事務局だより

執筆していただいた皆様には、短期間にもかかわらずご理解・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

次号から会報をより充実したものにするために「会員交流広場」を新しく開設いたします。会員の皆様の声や力作がたくさん届くのを、事務局一同楽しみにしております。



愛知県退職校長会事務局
名古屋市中区新栄二丁目 四九番一〇号
愛知県教育会館六階
愛知県小中学校長会事務局内
電 〇五二二六二一八八五二
FAX 〇五二二六二一六八〇七
E-mail ai-kocho@axel.ocn.ne.jp